

第6回新農林水産省生物多様性戦略検討会 議事概要

I 開催日時 令和4年2月8日(火) 16時15分～18時15分

II 開催場所 農林水産技術会議委員室 (Web会議併用)

III 検討会委員

- 涌井 史郎 東京都市大学 特別教授
- 橋本 禅 東京大学大学院農学生命科学研究科 (東京大学未来ビジョン研究センター兼任) 准教授
- 栗野 美佳子 一般社団法人SusCon 代表理事
- 生部 誠治 一般社団法人 全国農業協同組合中央会 農政部部长
- 井村 辰二郎 公益社団法人 日本農業法人協会 副会長、有機栽培農家
- 大津 愛梨 02Farm6 次化担当、NPO 法人田舎のヒロインズ理事長
- 大場 あい 毎日新聞 科学環境部 記者
- 岡部 貴美子 国立研究開発法人 森林研究・整備機構森林総合研究所 生物多様性研究拠点 拠点長
- 河口 真理子 不二製油グループ本社株式会社 CEO 補佐 (ESG・市場価値創造担当)
立教大学 21世紀社会デザイン研究科 特任教授
- 菊池 紳 いきもの株式会社 創業者・代表取締役
- 二村 睦子 日本生活協同組合連合会 執行役員 組織推進本部 本部長
- 松原 稔 りそなアセットマネジメント株式会社 執行役員 責任投資部長
- 森井 茂夫 日本水産株式会社 CSR 部 部長

計 13 名 ●座長、○副座長

IV 議事次第

1. 開会挨拶
2. 農林水産省生物多様性戦略の改定案
 - (1) 第5回検討会以降の動き
 - (2) 本文案の修正内容等
3. 連絡事項等
4. 閉会挨拶

V 資料

- 資料1 議事次第
- 資料2 検討会委員名簿
- 資料3 第6回検討会説明資料
- 資料4 戦略本文案

VI 委員からの意見

議事次第 2. (2)「本文案の修正内容等」

○「I. はじめに」について

・「I. はじめに」は、戦略改定にかける農林水産省の思いであり、もっと打ち出した方がよいと考える。文章を考えたので検討していただきたい。また、読みやすさの観点から、段落をあけて文章を区切るとともに、接続部分の表現を修正すべき（栗野委員）。

→基本的に反映する方向で、精査させていただきたい（事務局）。

○「II. 現状と課題」について

・我が国の生物多様性の現状に、水産分野のことが書かれていないので、追記すべき（森井委員）。

○「IV. 1. 農林水産分野における地球環境保全への貢献」について

・グラスゴーサミットの件は、コラム形式の記述では、グラスゴー宣言やFACT対話において記載された内容に十分に対応できていない。FACT対話では、透明性やトレーサビリティの向上が明確に書かれており、すぐ後段の「2. サプライチェーン全体において～」の記述にも直結するので、戦略の方向性として記載すべき（栗野委員）。

→今後必要となることについても、書ける範囲でしっかり書きたい（事務局）。

○「IV. 2. サプライチェーン全体において生物多様性を主流化する 1) 農業」について

・「今扱っている農薬は、厳格に科学的審査を行った上で安全だ」というのは理解するが、このままでは農業者に危機感が伝わらない。イノベーションを待つのではなく、栽培暦の再点検をスピーディーに行い、減らせるものはすぐに減らす必要がある。農業からの環境負荷をプラネタリー・バウンダリーの範囲内に収めるには、有機農家ではなく、コンベンション農家（慣行農家）がすぐにでも主体的に化学合成農薬を削減する必要があるという空気が醸成されるような書き方にして欲しい（井村委員）。

→「しっかりと見直して、積極的に取り組めるところは取り組もう」という姿勢を引き出すような形で記載するように検討する（事務局）。

・リジェネラティブ農業も、生物多様性を活かした農法ということで追記してはどうか（河口委員）。

○「IV. 2. (2) サプライチェーン全体で取り組むことで生産現場を後押しする」について

・金融機関が、サプライチェーンの行動変容を促す重要なキープレイヤーであることを明確にするなら、行動変容の項目ではなく、(2) 1) の中に、(サプライチェーンにおける金融機関の役割) の項目を作って記載すべき。また、記載内容は、「いかに日本国内の地域金融機関の自然資本に対する知見を高めていくことができるか。それが、やはり今後のサプライ

チェーン構築における重要な鍵を握る」といった内容にすべき（栗野委員）。

・「ESG 投資」は、金融は投資だけでないので、「ESG 金融」とし、銀行、保険会社も含まれる記載にすべき（栗野委員）。

・農林水産空間における NbS、Eco-DRR に日本の金融機関の力を投入するというのも十分考えられるので、こうした視点も入れて、金融の役割を記載すべき（栗野委員）。

→保険は非常に重要なステークホルダーになるので、そういったことは少し詰めた方がいいという意見には賛成（涌井座長）。

・「ESG 金融」より広い概念の「サステナブルファイナンス」を使ったら良いのではないか。地域の金融機関が、地域の自然生態系を資産として、どのようにそれを保全することによって地域の経済の活性化につなげるかというようなリレーションシップバンキングをやる必要があり、地域の金融機関も、「やらなければいけない」みたいなヒントになるような一言があるといい（河口委員）。

○「IV. 3. 農林水産空間の保全・利用を推進する」について

・農業者と林業者、水産業者が密接につながっている視点を加えて欲しい（大津委員）。

○「V. 実施体制を強化する」について

・教育について、生産現場へ足を運ぶ機会を増やすこと、それによって理解ある消費者を育てることを入れ込めるといい（大津委員）。

・受け手に合わせた情報発信が重要。農林水産省としての情報提供の在り方について記載した方がいい（二村委員）。

・金融は、企業が「認証品の調達やデータ提供」をすれば責任がクリアされるとは思っていない。生物多様性に係る PDCA という枠組みが大事であり、それに取り組む企業の価値観やストーリーを重視している。それを報告書の中に位置付けて欲しい（松原委員）。

○本文中の事例紹介（コラム）について

・分かりやすく、現場の方の参考になる。各コラムのタイトルや写真は、その事例の何が生物多様性に関わっているのか分かるように工夫すべき（大津委員）。

→取組の現場で使ってもらうには、読み手が納得できるものであることが大事。それぞれのレベルで使い勝手が良いものになるよう検討して欲しい（涌井座長）。

・住吉大社の御田を使った環境教育である「住吉かかしプロジェクト」は、生物多様性の重要性を伝える良い取組であり全国に広めるべきだと思うので、コラムで紹介して欲しい（河口委員）。

○「概要版」について

・国家の戦略のために自分達は苦勞しなければいけないのかとネガティブな捉え方をされる恐れがある。生態系基盤を保全し、より豊かな農林水産業を存続するためには、これに取り組むことが、自分達にとってもプラスになると納得してもらえるように工夫すべき（河口委員、大津委員）。

→今後作成する概要版において、御指摘の点が伝わるよう工夫したい（事務局）。

・主体ごとに見る視点が違うので、各主体の立場を意識して作成すべき（生部委員）。

・鳥獣被害対策について、生物多様性のことを書いてあるというよりは、動物をいかに減らそうかということが中心になっている。森林で、林業のためにきちんとした管理をすることが、農地の野生動物被害も減らすことにつながるのかもしれない。あるいは、農地と林地で協力しながら、野生動物対策をやっていくといった連携が、非常にいい成果を生む可能性がある。こういったことを含めての生物多様性保全の対策であり、そのことがもう少し分かるような図にしたらいいいのではないか（岡部委員）。

・本文の圧縮だけでなく、消費者が手に取る工夫をしていただきたい（大場委員）

○その他

・森林・林業のチャプターに、30by30に関する言及がない（栗野委員）。

・用語集に「生物多様性」を追加すべき（菊池委員）。

まとめと連絡事項

・本日の委員からの意見を踏まえ、戦略の中間取りまとめ公表に向け、事務局で最終調整を進める。修正は、座長・副座長に一任いただく。

・次回（来年度）の検討会開催については、改めて連絡する。